

「旧アルバム」より～

## 『レインボーブリッジ』

レインボーブリッジ(正式名称:東京港連絡橋、橋長798m、道路幅員29mの3径間2ヒンジ吊橋)は、都心部(港区芝浦地区)と当時開発中であった埋立地(お台場地区)を結ぶ吊橋。

この橋は、東京港第一航路をまたぐため中央径間長570m以上および桁下余裕50m以上を確保し、構造物の高さが羽田空港の航空制限を守るために吊橋形式となった。

当社の製作分担は、芝浦側の側径間補剛桁と中央径間の下層鋼床版桁だった。(櫻井孝氏「私に関わった橋梁の思い出」より抜粋)





レインボーブリッジは、首都圏で建設される初めての吊橋で、21世紀の国際都市・東京の新しいシンボルとなるもの。東京都心部と臨海部副都心の13号埋立地とを結ぶ臨港道路、高速道路、新交通システムからなる複合交通施設として計画された。補剛トラスと床組を合わせて約24,000tの製作を6社で行うもので、当社は芝浦側の側径間(114m)を担当した。製作は、輸送可能な部材(主に鋼床版)は取手工場、その他の鋼床版と補剛トラスは千葉臨海工場を担当した。(「社報129号」より)



東京都港区の芝浦地区と台場地区との間にある第一航路上に架橋された中央径間570m、全長798.0m、幅員29.0mの3径間2ヒンジ補剛トラス(二層構造)吊橋。

吊橋の上層は高速11号台場線で、高速湾岸線と都心部との連絡強化の役割を果たしている。

また、下層の中央部には新交通システム、その両側には遊歩道を併設した臨港道路が設置され、芝浦・台場の両地区を直結し、臨海副都心開発計画の中の交通基盤整備の根幹をなす世界でも稀な複合交通施設である。

川重・三井・東骨JV、他で施工。全体の竣工は1994年8月。

(「橋 1993～1994」より抜粋)